第 13 回定例教育委員会 会議録

開 催 月 日　平成28年12月21日（水）

開 催 時 間　午前 10 時 00 分から午前 11 時 30 分まで

開 催 場 所　教育委員会室

出 席 委 員　教 育 長　守　屋　　守
教育長職務代理者　白　川　　太
教育長職務代理者　飯 室　元 邦
委　　員　和 田　一 枝、野 田　清 紀 、武者　稚枝子

出 席 職 員　教　育　次　長　宮沢　雅史
教　　育　　監　渡 井　　渡
教　　育　　監　小 川　　巌
学力向上対策監　井上　耕史
総　務　課　長　小島　良一
福 利 給 与 課 長　柏木　精一
学 校 施 設 課 長　望月　啓治
義 務 教 育 課 長　青柳　達也
高 校 教 育 課 長　手島　俊樹
社 会 教 育 課 長　岩下　清彦
スポーツ健康課長　赤岡　重人
学術文化財課長　小澤　祐樹
新しい学校づくり推進室長　鈴木　昌樹
国 体 推 進 室 長　三 井　　勉
企 画 調 整 主 幹　成島　春仁
総務課総括課長補佐　草間　聖一
政策企画監（総務課課長補佐）古澤　善彦
総務課課長補佐　篠原　孝男
総務課課長補佐　望月　明男
総 務 課 副 主 幹　保垣　利恵
義務教育課総括課長補佐　下條　勝
義務教育課人事管理監　中込　司
義務教育課管理主事　白須　弘昭
高校教育課人事管理監　小川　弘一
高校教育課主幹・管理主事　廣瀬　浩次
スポーツ健康課課長補佐　松坂　浩一

傍　聴　人　1　名

報　　道　1　名

会 議 要 旨

〔　教育長開会宣言　〕
議案30号及び報告事項（10）については、個人情報に関することであるため、非公開としたい旨が教育長から発言され、出席委員全員が了承のうえ、非公開とした。

1　議　　案
第 30 号　職員の処分について
（　非公開　）
［説明］ 義務教育課

【原案どおり決定】

2　報 告 事 項
（　非公開　）
(10)　平成２９年度採用山梨県立学校実習助手（農業、工業）及び山梨県立特別支援学校寄宿舎指導員選考検査結果について

［説明］ 高校教育課

【 了 知 】

３　その他報告

(21)　平成２９年３月公立高等学校卒業予定者の就職内定状況（１０月３１日現在）について

［説明］ 高校教育課

野田委員　多分平成２１年度というのはリーマンショックの翌年ぐらいですよね。一番就職率の内定が落ちているのは分かるんですが、それ以外に、そうは言ってもずっと上がってきた要因というのは何なんでしょうか。

手島課長　やはり就職内定の状況につきましては求人数と密接に関連はしておりまして、労働局さんのほうから県内のハローワークで受理した求人数の資料をもらっているんですけれども、２１年度以降、求人数が増加しているという状況がございます。そういったことが内定率の一つの徐々に上がってきている要因になっているというふうには思っております。

野田委員　求人数の増加だけですか。学校指導とかいろいろ変わったんですか。

手島課長　もちろん平成２１年度の時にリーマンショック等がありまして、その場の緊急雇用基金の事業を活用して就職支援員等を各校に配置をしたというようなこともあります。ただ基金事業終わってしまいましたので、現在の就職支援員というものは配置はできておりませんけれども、平成２２年度以降、平成２５年度まではそういった支援はさせていただいたところでございます。

武者委員　ここの高校生の女性と男性の違いなんですけれども、今回の割合では男子も女子も８１パーセントと同等になっていて、増加の率は女性の場合は約８ポイント増という形になるんですが、これはやはり求人数で女性枠というか、女子枠が増えたということですか。

手島課長　そうですね。実は労働局の資料のほうで、産業別というようなことで求人数をちょうだいしていますので、例えば事務職が何人あったというような資料はちょっと手元にはないんですけれども、ただ労働局さんの話によりますと製造業が増えている中でも、やはり事務職の採用数などもここのところ増えてきていると。それから今年の場合は卸小売業とか、それから飲酒サービス等々につきましても求人数が増えておりまして、女子生徒が希望するような職種につきましての求人数が増加しているというところが、今回約８パーセント増ですので、かなり高くなったわけですけども、そういったものの要因というふうに考えております。

白川委員　お聞きしたいのは私が知りたいのは、就職先のことなんですが、一般人の中で例えばポリテクセンターさんだとか、就職を斡旋する機関だとかというのがあるわけであって、その中で正規雇用と非正規雇用というのは結構大きくて、とにかく非正規のところが１年目、２年目はいいんですけど、それがあとが将来にわたって非正規の方が就職するのに非常に苦労しているというやつがありましてね、ここで言っている高校生の就職というのは、正規ですか。

手島課長　基本的には新規学卒者の正規雇用を対象にはしておりますが、派遣的な会社がございまして、そこに内定したものは含まれてしまっております。

白川委員　そうすると先ほどの、そこがどんどん増えているんですよ。日本全国で増えていますので、山梨の傾向もさっき就職率が上がっているというのも、もしかしたらそこが多くなっている可能性もあるんじゃないかなということなんです。ちなみにそれってどのぐらいの、パーセントなのかというのは持っていらっしゃるんですか。

手島課長　ちょっとそこまでが調査できておりません。

白川委員　そうですか。また何かあったら個別に知りたいもので、いいですか。

手島課長　分かりました。確認をしてみます。

教育長　今のご意見って、例えばまだ第３回目が今からありますよね。それをそういう調査に加えることは可能なんですか。今調べようがないじゃないですか。これ就職されている方の全数ですよね。それに個別で、やり方は別にして個別の集計を全

部していますよね。今のはものすごく大切な話だと思うので、調査に加えていかないと数字多分出てこないですよね。

手 島 課 長　　そうですね。
各校にメールで投げて、確認します。

教　育　長　　今から確認ができるの・・

手 島 課 長　　１０月末段階で、その派遣会社等への就職者数が何人だったかというようなことを確認してみようか思います

教　育　長　　個々の会社も全部分かってこの数字が出てきているということですか。

手 島 課 長　　今各校にそれをちょっと投げて返事をもらおうかと思っていましたが。もし１２月末段階でよろしければ、その辺のことが加味できるような調査票の形態を考えまして、その辺の数値を１２月末の段階で、どの程度正確なものが出せるか、いわゆる派遣的な会社への就職者数が何人であったかというのを、別枠で数字を上げてもらうような形にしてみたいと思います。

白 川 委 員　　私はね、派遣会社が悪いということではないとは思うんですよ。ただ社会人の再就職のやつに私もちょっと一回行っていますと、大体そういう、実は派遣の会社さんから新しく正規雇用の募集に対して転職する方が何年かの間で多いんですよね。そうすると先だって知事のところでやっていたような00:16:03シフトを変えるだろうかというところに非常に結び付いて行くことだと思いますので、決してその策が悪いわけではないんですけれど、ただそれはちょっと統計的に今現状が子供たちがどうなのかなというのはポイントなんじゃないかと思いまして・・

手 島 課 長　　では１２月の調査のところでその項目を入れたほうが精度が高いし、今後そういうものを入れたほうがいいのかもしれないね。

手 島 課 長　　分かりました。余り学校に負担にならないような形で考えます。

教　育　長　　今から１０月分で確認すると負担が掛かるし、網羅的にできるかどうか分からないので、１２月の末の段階の数字を１月に集計するんですか・・

手 島 課 長　　はい。

飯 室 委 員　　県内、県外の就職率の全体が大体グロス１割ぐらいが県外ですよね。その中で工業系はやっぱり２割ぐらいが県外に行っちゃうんですよね。それでやっぱり今、僕の会社なんか製造業今半導体等々の会社は忙しくて、結構人がいなくて困るというぐらいでございまして、そういう製造業強化、あるいは山梨の人口等々加えていくと、やっぱりここの工業高校の県外のなるべくうまく調整できるか分かりませんけど、ここだけ２割比率がございますので、そこはちょっと下げていただいて県内でがんばっていただければ、さらに発展するんじゃないかと思いまして、その辺り要望でよろしくお願いします。

手 島 課 長　　ご指摘のとおりでございまして、今回の県外就職者の割合、県内、県外の割合で言いますと県外が１０．０％でございます。学科別に見ますと工業科がやはり１６．０％でございまして、他科に比べまして高い数値にはなっております。昨年度、甲府工業科の県外の割合が１４．３％でございます。
若干毎年工業科が若干平均に比べますと県外に出る率は高いんですけれども、今回その傾向がさらに増えてしまっている状況でございます。
様子をちょっと聞きますと、やはり景気回復の影響もあるのかもしれませんけれども、かなり県外の大手の有名企業から求人が来ている状況がございまして、そちらのほうに就職を決めたというような生徒が多く出ているというようなことを工業高校のほうからは聞いている状況ではあります。
今、自分がどういうふうにやっていくのかというところが重要かというふうに思いますので、名前だけで決める就職指導というのは決してしているつもりはありませんけれども、やりがいを持って工業科で学んだものを活かして、できるだけ県の産業界を支えていけるような人材として育てていきたいということで、本課も工業系については事業を展開しておりますので、そういうところに力を入れて参りたいと思っております。

野 田 委 員　　先に聞けば良かったんですけど、例えば高校生の就職という観点から見ると、これ公立高校なんでしょう。私学はいかがですか。

手 島 課 長　　私学は私学で別集計しておりまして・・

野 田 委 員　　そうでないと、本当に山梨県内の高校生の就職状況がどうなっているかと把握はできないじゃないですかね。

手 島 課 長　　文科省のほうで集計したものは公表しておりまして、私学も合わせた本県の就職内定率につきましては７８．２パーセントでございます。

野 田 委 員　　どんな系統に行かれるのが多いですか。

手 島 課 長　　ちょっと私学のデータは持ち合わせてないものですから、その辺の傾向は何とも分かりかねるんですけれども・・

野 田 委 員　　同じ高校生ということで見ると、公立高校だけそういう関心を持っていればいいかというとちょっと違うと思うんですよね。やっぱり私学のほうもそういうことを見ておく必要があるのかなと思います。

手 島 課 長　　全国的な状況を簡単にご説明しますと、全国平均は７４．９パーセントでございまして、そして本県が先ほど申し上げました７８．２パーセントでございますが、８０パーセントを県全体で超えている県が数県、片手ぐらいありますという、県外の状況はそんな状況でございます。

和 田 委 員　　４の調査結果の概要の（３）の課程別の内定率というところで、全日制と定時制で、定時制も増加はしているんですが、結構差があるんですけども、例えば不登校だった子が行ったりとか、経済的に厳しい子が行ったりして、進学する子はほとんどいないのかなというふうに思うんですけど、この差はちょっと気になるんですけど、どうなんでしょうか。

手 島 課 長　　全日制も大分上昇しておりますので、中々差が縮まってはいかないんですが、１０月末の段階で定時制がここまで数字を上げているというのは、これまでに比べますと大分改善傾向にはあるというふうには思います。
ただ今ご指摘がありましたように、不登校的なことを経験している生徒であったり、あるいは発達障害的な若干障害を抱えて支援が必要であるような生徒を多く抱えているような状況もございまして、さらには中々本人が就職に踏み出す一歩が踏み出せない生徒たちが非常に多いものですから、できるだけ声を掛けながらやってくれてはいるんですけれども、まだまだ改善の余地はあるというふうな状況かというふうに思います。
もう一点、定時制の場合はアルバイトをしている子供がいるんですけれども、そのまま卒業してもそのアルバイトを継続するというような生徒もいまして、アルバイトはここ含んでおりませんので、ちょっと数字が下がっております。聞くところによりますと、例えばアルバイトをさらに何年かやると正規にしてくれると言ってくれているので、そのままアルバイトをやるとか、目先を考えてしまう生徒が多くて、どうしてもアルバイトのほうが手取りがよくなってしまう傾向もあります。いろいろ引かれませんので。自由にシフトで自分が遊びたい時に自由に休めてしまうと。どうしても目先にとらわれて、このままでいいですみたいなことを言う子も多いというふうに来ておりますので、やはりライフプランなんていうのを今回は本課で取り入れて各校にやってもらうようにしているんですけれども、その長いスパンで自分の人生を考えるような教育というものにちょっと力を入れて参らなければならないというふうに思っております。

和 田 委 員　　ぜひそこに力を入れていただいて、社会的にきちんと自立していけるだけの高校時代に力を付けて、社会に出て行けるようなシステムが最低必要かなと思うんですが、よろしくお願いいたします。

【 了 知 】

(22)　平成２９年県下市町村の「成人式」について
［説明］ 社会教育課

和 田 委 員　　今のご説明の中で、笛吹市が複数の市町村ごとにやっていたのを１カ所にしたということなんですけど、地域ごとにやっていた良さというのがすごくあったのかななんていう声を聞いているんですけど、一カ所になった理由は何か問題があったのでしょうか。

岩 下 課 長　　そこまで細かくはいただいておりませんが、今年からということでお話をいただいたところです。

【 了 知 】

(23)　平成２８年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について
［説明］ スポーツ健康課

野 田 委 員　　僕は絶対山梨県の傾向だと思うんですけど、どこに行くにも車。うちの近所の高校を見ると、雨が降ると朝夕親が送ってくるわけよ。そういう過保護の傾向があるからだめ。
僕らだって都会に行って、東京に出張に行くと、まあうちの近所だと毎日３千歩から５千歩の間だけど、都内に行くと１万歩ぐらい歩くものね。結局歩く度合いじゃないのかなと思うんですよ。
そして今の遠足なんかもそうでしょう。僕らの頃は、僕は南アルプスの西野小学校のとこだったんですが、あそこから西に見える築山、有野のほうまで遠足で歩いて行ったんです。今みんなバスでしょう。何で遠足で、遠足と言いながらバスなのかと思うよね。そういうことをやっているから、その習慣から変えないと、こんなもの好きか嫌いかというところでなくて、そこを変えないと僕は上がらないと思う。

教　育　長　　安全性というかセキュリティーの話も一方では出てくるよね。

野 田 委 員　　それはあるけどね。昔は交通がそれほど激しくなかったから歩いて行ってもいいと言うんだったら、そんなの気を付ければね。

飯 室 委 員　　この全国の数値を見せていただくと、何かやっぱり学力と体力は比例するようなことですよね。福井とか秋田とか入っていましてね。山梨もいつも平均点以下学力、体力も平均点以下。そこでデータは、もちろん結果は結構ですけど、僕はこれから先どうするかという、そこの方向性を出していただいて、そしてここで議論して、そして早速各学校にこういう形でお願いしますというふうに、そこにいかないと、いつも評価を、結果をぐじぐじと言ってても元に戻らないし、やっぱり次のステップをぜひぜひ考えていただいて、何とか平均点を超えて、しかも僕は平均点と比べると一番いつも言っているんですけど、一番上、二番手辺りと比べて、このぐらい県内は山梨は控えているからもっとがんばろうぜという、そういう指標が必要かなと思うんですけどね。よろしくお願いします。

赤 岡 課 長　　おっしゃるとおり、ご指摘のとおりでありまして、これまでの山梨県の少なくとも体力は私どものところの体力なんですが、ずっと下位を張り付いていた状況があるという中で、やはりここで目標を掲げて何とか中学については平均を上回るようなところに来てと。これからまだまだ道半ばということだと思っております。

武 者 委 員　　今の学力こととかも関係あるんじゃないかということなんですが、中学３年生、今回の学力テストなんかもちょっとよかったなんていう経過がありましたけど、この中学、特に３年生女子ですか。

赤 岡 課 長　　２年です。

武 者 委 員　　２年ですか、２年生。これは何か高く良くなった背景というか理由、裏付けはあるんでしょうか。

赤 岡 課 長　　詳細なところは、これから各学校の状況、伸びている学校、そのままの学校を個別に見ていく、分析する必要があるだろうというふうには思っておりますけれども、中学、今回学校に対する調査、どんな取り組みをしているかという調査もやっているんですけれども、それを見ていくと中学校のほうが小学校に比べて、

小学校と中学校を比べると中学校のほうが取り組みの改善をした、充実をしたと、去年から比べると取り組みの充実を図っているというような結果があるので、そのことが成績の向上に結び付いた。じゃあそれが男女でどういう違いがあるかというところは分からない、ちょっとまだそこまで分析はできていないんですけども、大まかなことを言うと中学で今年度取り組みの充実が図られたという結果が貢献しているんだろうと思います。

武 者 委 員　それがまた公になりましたら、ほかの学校ですとか、小学校なんかで反映できますものね。

教　育　長　要因と結果は合っているの。たまたま結果だから成果が出たんじゃなくて、こういうことをやっているからそれが成果として現れたという、その原因と結果がちゃんと相関関係、因果関係がある。

赤 岡 課 長　それはこれから詳細に分析はしますけれども、特に今年、要は目標設定をして、具体的な数値目標設定をしてその体力向上に取り組んで下さいということを４月の頭に言いまして目標設定をやりましょうと。去年も言っているんですが、特に今年それを強く言っている。今回その調査結果を見ると、目標設定をして取り組んだというのは中学校のほうが飛躍的に数字が伸びている。それは全国に比べても高い数字。
一方で小学校は、そこの部分が数字が伸びていない。それは全国に比べても低いというような状況があるので、今言うように原因、結果というところはある程度因果関係があるのかなというふうには思っておりますけど、それが全てかどうかというところはまだ言い切れないので、一つそういうものはあるだろうと。

教　育　長　そして学力も体力も小学校は全国から低い状況が続いているけども、中学は高い状況が続いている、それも同じだよね。

赤 岡 課 長　そうです。

和 田 委 員　学力の問題も小中の勉強をしながら、小学校と中学校と同じような方向でとかというふうなことをやっている所も出てきていると思うんですけど、体力についても例えば中学校区でもいいですけど集まって、そしてこの地域として子供たちの体力を高めていこうかとかというような取り組みをされているような所は県内にありますか。

赤 岡 課 長　その地区で集まってという所は承知はしていないです。やっぱり今のところは学校単位で取り組みをしている状況です。

和 田 委 員　できればそういうふうな小中で連携を取りながら、地域ごとの特性もあるかと思うので、やっていくことも必要なのかなと。もっと言えば、保育園とか幼稚園の子供たちも運動の量が少なくなってきていると思うんですけど、あとは家庭の問題で、休みの日に車に乗ってどこかに出掛けるというような家庭が大変多いと思うんですけど、体を使ってとかというふうなことは少ないのかなと思うので、特に小学校の段階では遊ぶということがすごく大事だと思うので、そういう家庭へのそういう取り組みも、学力テストについては家庭の手引きを出していますよね、必要な時に。そちらも家庭でもうちょっとがんばってもらうというも必要なのかなと思うんですけれど。

赤 岡 課 長　今モデル校を指定して、休み時間の時何かに通じて、遊びを通じた運動の動機付けとかきっかけづくり、そういうことをやっている、そのモデル校があります。そのモデル校の成果、今の成果が出るというのは分かっているんですけど、そのモデル校が成果が上がったのがどんな取り組みをしているかとか、そういう分析もしながら、要は成功例と失敗例と比較しながら、そういうものを踏まえてじゃあ何をすべきか、家庭との連携のあり方も含めてなんですが、そういうものをきちんと分析をした上で次のステップ、取り組みというのを考えたいなというふうに考えております。

教　育　長　飯室委員さん、大変ご自身の会社がそういうデータを取り扱う会社なので、多分もっと本当はご提案があるんだろうと思うんですけども、１０年間これだけの項目をいろんな定性的な調査も含めて、１０年間のデータが各小学校単位で全部出

ていて、学力も体力もですね。それって文科省さんも、いや競争じゃないよと言っているのは確かにそのデータをどうやって因果関係を分析をして、いいところが本当にこういうものがこういう結果が出る、これがこういうことをやっているからだという、そういうものを恐らく小中学校合わせれば３００近くありますよね。それをどうやってできてない所にできている学校の事例を紹介するかと、そういうところをもう少し体系的に、データがあるので体系的に分析して展開すると必要なのかなと思って、今飯室さんのお話を受けた時に多分民間さんじゃあ当たり前のようにやるんだろうけども、それをぜひうちの委員会でも学力も体力もデータはたくさんあって分析に活かす。それをもう少しやったほうが、いろいろいいことが起こりそうな感じがすると思ったんですけどね。
いろいろご提案、ご意見ありがとうございました。ではよろしいでしょうか。
ありがとうございました。

【 了 知 】

〔 教育長閉会宣言 〕